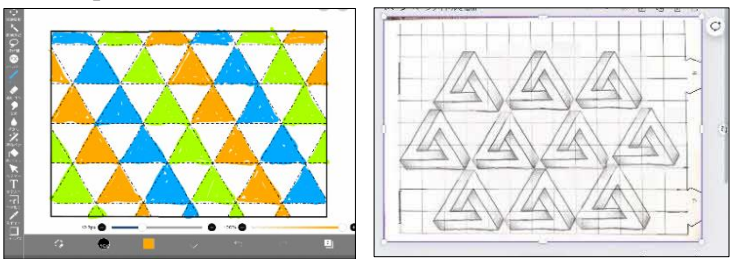


主体的な活動・学びにつながる ICT 活用

「デザインの作成」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・中学部 3 年
	障がい名等	知的障がい
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	・学年での集団学習である。学習面、生活面での実態差が大きく、学習を進める上で、言葉かけや課題の設定などそれぞれ実態に応じた対応が必要である。 ・美術での制作はしたことがあるが、事前に塗る色や描くものの計画を練るなど、構想を練って制作に取り組むという経験が少ない生徒が多い。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	美術
	単元(題材)名	「キャンドルホルダーを作ろう」
	単元(題材)の概要	・生活に身近な光のデザインを取り扱い、美術の中のデザインの分野を身近に感じてもらうために本単元を設定した。光の形や色彩の変化などに着目し、光が作り出す空間の美しさや使う場面などをもとに光や影の効果を考え、タブレット端末を使い下絵を構想した。
教材・教具 支援機器について	教材・教具 支援機器	アプリ「ibis paint」、「Canva」を使ったデザイン・パターンの作成。 
	ねらい・工夫点	〈ねらい〉 ○色と図形の組み合わせから、キャンドルホルダーの模様を考えることができる。 ○レイヤーを使いデザインをすることで、効果的な色の組み合わせや調和の取れたデザインを考えることができるようにする。 〈工夫点〉 ・タブレット端末を使って下絵を制作するにあたり、色だけの組み合わせと模様を描くものの2種類を準備した。色の組み合わせを先に制作することで、タブレット端末の操作に慣れることができるようにした。 ・レイヤー機能を使用することで、下絵を消さずに色の変更ができるようにした。違っていても、レイヤーを非表示にすれば新しいデザインを考えることができ、また、レイヤーごとにデザインの案を分けることで、どの案が良いか見比べることができるようにした。
	材料・作成方法等	タブレット端末、アプリ (ibis paint、Canva)
	子どもの変容や評価	・タブレット端末を使用してコピーや拡大、レイヤーなどのアプリの機能を使うことで、パターンを使ったアイディアを描くことが容易になった。 ・アプリだと簡単にやり直しができるため、2枚目の構想を考えることに抵抗感が少なくなり、少し違う模様を作りたいなど、構想を深めることができるようになった。 ・無料アプリを使うことで、既に家庭で使用し、使い慣れていた生徒は、ブラシの形状を変化させ下絵を構想することができた。